TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★☆☆☆ みじかい　236語

The Farmer and the Cranes

お百しょうさんとツル

Aesop（1919年の本）　原文そのまま　朗読：lewildesen

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　まいたたねを食べにくるツルたち。お百しょうさんは石のないひもをふりまわしておどかしますが、ツルたちはすぐになれて……。



Some Cranes saw a farmer plowing a large field. When the work of plowing was done, they patiently watched him sow the seed. It was their feast, they thought.

So, as soon as the Farmer had finished planting and had gone home, down they flew to the field, and began to eat as fast as they could.

The Farmer, of course, knew the Cranes and their ways. He had had experience with such birds before. He soon returned to the field with a sling. But he did not bring any stones with him. He expected to scare the Cranes just by swinging the sling in the air, and shouting loudly at them.

At first the Cranes flew away in great terror. But they soon began to see that none of them ever got hurt. They did not even hear the noise of stones whizzing

through the air, and as for words, they would kill nobody. At last they paid no attention whatever to the Farmer.

The Farmer saw that he would have to take other measures. He wanted to save at least some of his grain. So he loaded his sling with stones and killed several of the Cranes. This had the effect the Farmer wanted, for from that day the Cranes visited his field no more.

Bluff and threatening words are of little value with rascals.

> **Bluff is no proof that hard fists are lacking.**

ツルたちが、お百しょうさんが広い畑をたがやしているのを見ていました。たがやすしごとが終わると、ツルたちは、お百しょうさんがたねをまくのを、じっとがまんして見ていました。あれは自分たちのごちそうだ、とツルたちは思いました。

そこで、お百しょうさんがたねをまきおえて家へ帰るとすぐに、ツルたちは畑におりてきて、大いそぎで食べはじめました。

お百しょうさんは、もちろん、ツルたちのやり方を知っていました。前にも、そういう鳥にこまらされたことがあったのです。お百しょうさんは、まもなく石なげのひもをもって畑にもどってきました。けれど、石は1つももってきませんでした。ひもを空中でぶんぶんふりまわして、大声でどなるだけで、ツルたちをおどかせると思ったのです。

はじめ、ツルたちはとてもこわがってにげていきました。けれどまもなく、ツルたちは、だれもけがをしないことに気づきはじめました。石が空を切ってとんでくる音も聞こえないし、ことばなんかで、だれもやられはしません。とうとう、ツルたちは、お百しょうさんのことなどまったく気にしなくなりました。

お百しょうさんは、ほかのやり方をしなければならないとわかりました。せめて、自分のこくもつを少しでもまもりたかったのです。そこで、お百しょうさんはひもに石をつめて、ツルを何わかしとめました。これは、お百しょうさんののぞんだとおりのききめがありました。その日から、ツルたちは二度と畑にやってこなくなったのです。

わるい者には、口だけのおどしはあまりききめがありません。

> **口でおどすだけだからといって、ほんとうの力がないとはかぎりません。**

たんご と クイズ お百しょうさんとツル

Cranes ツル	**farmer** お百しょうさん	**field** 畑
seed たね	**sling** 石なげのひも	**stones** 石
grain こくもつ		

Q1 お百(ひゃく)しょうさんが、はじめにもってこなかったものは？

① ひも　② 石(いし)　③ ぼうし

Q2 ツルたちが、お百(ひゃく)しょうさんを気(き)にしなくなったのはどうして？

① だれもけがをしなかったから　② おなかがいっぱいだったから

③ お百(ひゃく)しょうさんがいなくなったから

こたえ

Q1　②　石(いし)なげのひもはもってきましたが、石(いし)はもってきませんでした。ふりまわしてどなるだけでおどかせると思(おも)ったのです。

Q2　①　ひもをふりまわしても、どなっても、だれもけがをしないとわかったので、こわくなくなったのです。

原田英語の多読ベストジュニア
本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。
haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：lewildesen（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。